

# 上高地雪訓及び遠見尾根雪上ハイク

【報告者】Y川

【日時】2018年5月3日～同5日

【天候】 3日：曇のち雪 4日：雪のち曇 5日：みぞれのち快晴(強風)

【参加者】A屋(CL) K田(食担) A山(記録) Y川(記録) Y田(会員外)

## 《コースタイム》

2日 21:00 古賀 SA 集合

3日 09:00 梓川 SA 着 11:30 沢渡着 13:30 河童橋発 16:30 岳沢着 20:30 就寝

4日 05:00 起床 07:00 雪訓開始 10:00 雪訓終了 13:30 岳沢発 15:20 小梨平着 21:00 就寝

5日 04:20 起床 09:00 八方尾根ゴンドラ山麓駅着 11:30 遠見尾根ゴンドラ山頂駅発(登山開始)

13:45 中遠見山着 14:15 中遠見山発 15:30 遠見尾根ゴンドラ山頂駅着(登山終了)

17:00 天神の湯着 23:59 就寝

6日 06:00 起床 07:30 信濃大町発 12:00 大津 SA 着 20:00 帰福

## 《 報 告 》

### [5月2日]

本山行のアプローチはO森パーティ(不帰ノ嶮登攀)と合同で行った。各メンバーをピックアップしてY田号とO森号は古賀SAでランデブー。天候不良が予想されており、フードコートにてパーティ同士の行動方針を共有する。

### [5月3日]

60分~90分ごとにドライバーを交代しながら、山陽道・名神・中央道を経由して長野を目指す。古賀SAから梓川SAまで約12時間である。梓川SAで朝食を摂り、O森号とブレイクする。途中のスーパーで酒類や肉類等を追加調達する。沢渡からはバスを利用する予定だったが、たまたま5人乗りタクシーを利用することができた(上高地まで5人で4200円)。5人乗りタクシーは台数が少ないので、予約をしておく方が良さそうだ。

上高地で下車後、河童橋まで移動する。本日の登山行程は岳沢までなので、河童橋周辺を散策しながら、ゆっくりと登り始める。前日の大雨で梓川本流は少し濁っているが、支流の岳沢に入ると水は透明になり、湿地帯がとても美しい。前半は氷が露出している箇所や濡れた木道が幾つかあり慎重に歩く。今年のGWは雪が少ないようで、1800mくらいから雪道になる。

岳沢到着後、少し小屋で暖を取り幕営開始する。この日の幕営数は10張程度である。17:30頃からビールとソーセージで0次会を始める。夕食は具材たっぷりの豆乳鍋である。夜の初めのころから弱い雪になる。

### [5月4日]

朝から雪である。時折風も強く、外に出るのが億劫になる。しかし、昨晚からの積雪は20cm程度あり、GWとしてはありがたくもある。昨晚の豆乳鍋から雑炊を作り、朝食とする。本日午前には岳沢周辺で雪上訓練を行う。内容はアイゼンワーク(登高・下降・トラバース)・滑落停止・ビーコン探しを各1

時間程度である。他のパーティも雪上訓練か沈(注 1)である。

雪上訓練を 3 時間程度で切り上げ、テントに戻り昼食を摂る(棒ラーメン)。昼食後テントを撤収し、下山を開始する。昨晚の積雪で道は歩きやすくなっているが、滑りやすいのは相変わらずである。

小梨平へ下山後、枝沢のほとりを幕営地に選ぶ。梓川本流に近い場所は人気のようで空きはなかった。幕営後、食堂でコーヒータイムブレイクし、食材を追加購入する。売店は卵 1 個や米 1 合から売っているので、使い勝手が良い。小梨平の銭湯で身を清め、各自河童橋周辺を散策する。今夜の 0 次回は A 屋チーフのリンゴ漬けワインから始まる。メインは具材たっぷりペンネ、とても美味し。20 時頃から風が強くなり、テントに追加設置したタープを畳むことにする。

## [5 月 5 日]

朝から湿った雪と強風である。5 人乗りタクシーを 5:30 に予約してあるので、朝食を後回しにして急いで撤収する。とにかく寒い。沢渡で Y 田号に乗り換え、安曇野のコンビニで朝食とテルモスへのお湯補給を済ませて八方尾根へ向かう。

八方尾根ゴンドラ山麓駅に着いて出発準備を行うが、強風でゴンドラとリフトが動かないようだ。終日運休の可能性もあるらしい。確かに風は強いが快晴なので悔しい。1 時間ほど待つて動かなければ八方尾根は諦める方針が A 屋チーフから発せられた。その間、いろいろな代替案を考えたが、A 屋チーフがダメもとで電話したところ、遠見尾根のゴンドラは問題なく動いているらしい。そこで、遠見尾根を行けるところまで往復するという案に落ち着いた。

遠見尾根のゴンドラはエイブル白馬五竜というスキー場のものを利用する。山頂駅からはスキー場をしばらく歩くが、スキーヤー等に轢かれないよう注意を要する。スキー場の最高点が地蔵の頭である。ここからは稜線歩きとなる。雪庇の張り出しは緩く、トレースを辿れば特に問題ないが、時折強い風が吹くので、転倒に気を付けて歩く。斜度のきつい登りでは、つま先を蹴り込むとズル滑りすることなく登ることができる(キックステップ)。

中遠見山を本日の折り返し点とする。後立山連峰の眺めは圧巻である。特に鹿島槍の北壁がカッコイイ。皆、思い思いに風景をカメラに収める。中遠見山には若い登山者の遭難碑がある。7 回忌にご両親が建てたらしい。もし自分が山で命を落としたとき、残された者の心境はどのようなものだろうか? そんなことを考えつつ下山を開始する。

雪がグズグズしていて下りは少し滑りそうだ。踵から踏み込むように下ると安定した素早い下降ができるが、念のためアイゼンを装着する。地蔵の頭に近づくと斜度が緩み、各自グリセードや尻セードを試みる。残雪期登山の下山はあっという間である。

ゴンドラ山麓駅から Y 田号で温泉に向かう。白馬ハイランドホテルの日帰り湯「天神の湯」である。早くも現実に引き戻されそうなネーミングであるが、露天風呂からは後立山連峰を一望できる。

今夜は信濃大町に宿を取り、O 森パーティと合同でお疲れ会を催す。本当は郷土料理の店に入りたかったが、7 人は入らないらしい。そこで、とりあえず目に入った台湾料理の店「家郷(ふるさと)」に決める。食べ放題・飲み放題で 3500 円という安さに惹かれたのだ。この店、いろいろな点でぶっ飛んでいるのだが、詳細は実際に訪れて確認されたい(味は良い)。バラエティ旅番組のネタになりそうである。

大町の宿は「松葉屋ゲストハウス」である。素泊まり 3700 円で、部屋は広く自炊も可能である。古い旅館(注 2)を改装したそうで、秘密会議に使えるような尖塔の小部屋が面白い。男子部屋で 2 次会を行い、日付が変わる直前に就寝。

## [5月6日]

6時に起床し、朝の後立山連峰の景色を楽しむ。昨日持ち帰った台湾料理の残りを朝食とし、7時過ぎに大町を出発する。中央道からは南アルプスと中央アルプスを望むことができたが、ピークの照合までは難しい。滋賀県の大津SAに12時前に着き、ここで昼食を摂り交通費等の精算を行う。Y川は京都に寄って帰るとのことで、深草のバス停でY川を降ろす。残り6名はそのまま名神・山陽道経由で21時前に帰福する。

注1 正確には沈殿。悪天によりテント等で待機することをいう。ピナクルでこの用語を使うかどうかは未確認である。

注2 築100年の木造4階建の宿。現在の消防法的にどうなのか？といったネタがO森さんから...

## 《費用》

項目	費用	備考
配車費(Y田号・O森号)	26000円	往復1人当たり
ガス缶	1000円	500円×2缶
食費	10300円	
ゴンドラリフト	8100円	往復
幕営料	9000円	岳沢1000円/人 小梨平600円/人
宿泊費(大町のゲストハウス)	18500円	3700円/人
駐車場	1800円	沢渡600円/日
タクシー代	8400円	片道(上高地-岳沢)4200円
配車費以外の合計(※)	57100円	
1人当たり	37420円	26000円(交通費)+11420円(※÷5)

## 《メンバー所感》

### [A屋(CL)]

「GWの雪稜登山の醍醐味」を伝えたく、初級の残雪期登山の合宿を企画した。ルートの難易度が適切であることはもちろん、気象リスクを抑えることにも意識を傾けた。ゴンドラリフトが運休になるほどの悪天のなか、目いっぱい時間を北アルプスの中で活動できたのは良かった。残雪期特有の寒暖の差、固かったり腐ったりする雪質の変化、そしてダイナミックな北アの景観など、九州近辺の山では体験できないことをメンバーには体で感じてもらったのではないだろうか。欲を言えば、雪面を切り開いて幕営地を構築したり、立ってられないような暴風を体験したり、雪崩の起きそうな斜面を回避したり、早朝の雲海を眺めたりなど、もっともっとお楽しみプランがあったのだが、天気の影響で次回へのお預けになってしまった。文字通り寝食を共にする中で、北アでの様々な経験を共有できたのは私自身とても幸せであった。まだまだリーダーとして至らない点があったがメンバーの積極的な協力に感謝します。来年は少しステップアップした雪稜の縦走を企画したいので、またよろしく願います。

### [K田(食担)]

雪上訓練にて初めて自分のビーコンを使ってサーチモードの練習が出来た。発信モードしか行ったことがなく、サーチモードの仕方が分からなかったので勉強になりました。荒天の中、何度も計画を見直していただいたお陰で素晴らしい景色を楽しむことが出来ました。メンバーのみなさまには大変お世話

になり、ありがとうございました。

### **【A山(記録)】**

#### ①良かった点

天候に恵まれない時でも、常に臨機応変に対応していただき、無駄な時間を過ごす事なく、また危険をおかすことなく、はじめての北アルプスを満喫出来たこと。

#### ②反省、対策

山行前のボックトレーニングで捻挫グセがついてしまったこと。日頃からストレッチや筋トレ、ボックトレをして、柔軟性とバランス力をあげ怪我予防に努めようと思います。

#### ③学んだ点

A屋さんのリーダーシップ、K田さんの気遣いとリーダーのフォロー、ムードメーカーY田さんの明るさ、しっかり者Y川さんの頼もしさ。パーティで行動することで皆さんの長所から学ぶことが多く、私もパーティの役に立てるよう技術と知識を身に付けたいと思いました。

### **【Y川(記録)】**

入会して間もない自分が、このような大型山行に参加できたこと、大変ありがたく思います。積極的に引き込んでいただいたA屋チーフ、検討いただいた運営委員会の皆様、ありがとうございました。山行前から天気を心配していましたが、チーフの柔軟な判断により、可能な限り最大限楽しむことができました。本山行ではチーフの「行動方針の決定」について多くを学ばせていただきました。これを「次の山」へと活かしていきたいと思います。最後になりますが、一緒に登ってくださったチームの皆様、装備を貸して下さったK崎さん、本山行を応援して下さった会の皆様、ありがとうございました。

### **【Y田(会員外)】**

#### ①良かった点

他の方から見習う点：登山は入山前の準備で8割決まっている。と言われるように今回の山行は事前の準備期間で不安・不足を可能な限り補強出来た気がします。その安心から実際の登山中は落ち着いて行動出来ました。やみくもにトレーニングするのではなく、課題に応じた取り組みをしていきたいです。又、気象条件に合わせた豊富な山行計画案は経験とリサーチ力だと思い心強かったです。

#### ②反省点

改善点：スムーズに装備を装着出来ませんでした。ポイントに分けて着脱の練習はしていたのですが、冬山用の衣類を身に付けてしまうと想像以上に身体が動きにくかったです。